

平成29年度 第1回窪田空穂記念館運営委員会 会議概要

- 1 日時 平成29年5月18日(木) 午後1時30分～3時
- 2 会場 窪田空穂記念館会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員側
飯沼秀文委員、折井理智子委員、笠原幸一委員、上條宏之委員、
来嶋靖生委員、窪田武夫委員、坂口登美子委員、篠弘委員、渡邊正明委員 9人
 - (2) 市側
関沢事業担当課長、土屋係長、勝野分館長、小暮主事
- 4 平成28年度事業報告
 - (1) 短歌講座について
 - ア 参加者の高齢化も進み、50名前後が限界かと思われる。地域の新聞等の協力を得ることが必要となってくる。(委員)
 - イ 全国的に短歌人口が減りつつある。抜本的な対策は考えにくい。(委員)
 - ウ 過去に応募してくれた人にハガキを送って募集をかけることで参加者の増が見込めるのではないか。(委員)
 - エ 俳句をやっている人も短歌を投稿したりしている。短歌や俳句といった短詩系文学の相互交流は可能であるし、助長していくべき。俳句雑誌「岳」とのコラボレーションなどもできれば良い。(委員)
 - (2) 企画展について
 - ア 良いテーマだったと思う。いかに老いるかということは皆が関心を持つことであり、空穂は老いの見本のようなところがある。これに続くようなことを考えてもらいたい。(委員)
 - (3) こどものうた
 - ア 芝沢小学校は係の職員が力を入れており、結構な数が出ていると思う。(委員)
 - イ 高校生にやらせたい。寺山修司のように、歌人の道に続く可能性がある。(委員)
 - ウ 当初は少なかった子どもを対象とするものが増えて来ており、大変良い。(委員)
 - (3) 子ども教室
 - ア 百人一首は「ちはやふる」の影響で流行となっている。高校生の中には自分で読める人もいて、協力してくれている。ここを広げていけたら良い。(分館長)
 - (4) その他
 - ア お茶の人たちも高齢化している。(委員)

5 平成29年度事業計画

(1) 企画展「若き君たちへ」について

ア 空穂の子育て・教育観はぜひやってもらいたいテーマである。(委員)

イ 2つのテーマ(校歌と教育者)は大きすぎるのではないか。(委員)

ウ 空穂が作詞した校歌を整理して録音しておくことは必要なことである。(委員)

(2) その他

ア 百人一首から短歌を作り始める人も多くいる。ただ取るだけではなく実作に結び付けてもらいたい。(委員)

イ 和田の短歌サークルなどで指導していただける先生がいれば活気がでると思う。公民館報の短歌欄を復活させるなど、短歌に接する機会を和田の住民に提供していきたい。(委員)

ウ 子どもの短歌は6年生の教材の発展学習に繋がっている。作品展にも、親子で足を運んでもらいたい。自分の作品が飾られていることは励みにもなる。また応募できるように協力していきたい。(委員)